

2016年11月25日

各位

## 積水ハウス株式会社

**ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス「グリーンファースト ゼロ」の推進が  
「平成28年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞**

積水ハウス株式会社(本社:大阪市北区、社長:阿部 俊則)は、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)「グリーンファースト ゼロ」の推進により、11月25日(金)に発表された「平成28年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」(主催:環境省)を受賞しました。

「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」は、平成10年度から環境省において、地球温暖化対策を推進するための一環として、地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人又は団体に対して、その功績を称えるために実施されているものです。

今回の受賞の主な理由は以下のとおりです。

「グリーンファースト ゼロ」は、我慢ではなく快適に暮らしながら生活時のエネルギー消費を建物性能の向上と最新省エネ機器で削減し、残りを太陽光発電や燃料電池などの創エネ機器の発電で相殺する。2013年の発売以来、2016年7月末までに23,469棟を販売し、CO<sub>2</sub>削減量は約10万t-CO<sub>2</sub>/年を達成した。「グリーンファースト ゼロ」比率は、受注の70%を超えた。

**家庭部門のCO<sub>2</sub>削減は急務。日本の公約達成のため、住宅が果たす役割は大きい**

気候変動対策は避けられない社会課題であり、2015年に開催されたCOP21(気候変動枠組条約第21回締約国会議)で採択された「パリ協定」において、日本政府は2030年度までに2013年度比26%のCO<sub>2</sub>削減を公約しました。その達成のためには家庭部門において39.3%もの削減が求められ、住宅会社が果たす役割は非常に大きいものとなっています。これに伴い、日本政府は2020年にはハウスメーカー等の新築住宅の過半数をZEH化するという目標を設定しています。

**「グリーンファースト ゼロ」推進で目指す“脱炭素社会”**

積水ハウスは、住環境、地球環境の未来に責任を担う環境先進企業として、2008年には2050年までに住まいからのCO<sub>2</sub>排出をゼロにする「2050年ビジョン」を発表、“脱炭素社会”を目指し、2013年4月よりZEHである「グリーンファースト ゼロ」の販売を始めました。

積水ハウスでは、ZEHにおいてもライフスタイルや敷地に合わせ、まちなみに適した美しいデザインや庭を楽しむなど住まいとしての要素が重要だと考えています。このため「グリーンファースト ゼロ」は、瓦型の太陽電池や最先端の省エネ・創エネ機器により、住む人が我慢することなく快適に暮らしながら、生活時のエネルギー収支をゼロにする住宅を実現しています。

「グリーンファースト ゼロ」の2016年度上半期の新築戸建住宅に占める比率は72%に達しており、既に政府の2020年度目標を大幅に上回っています。2016年7月までの累積販売棟数は23,469棟、そのCO<sub>2</sub>排出削減量は約10万t-CO<sub>2</sub>/年に達しており、地球温暖化防止に大きく貢献しています。

積水ハウスでは、2020年までに新築戸建住宅の「グリーンファースト ゼロ」比率80%を実現し、今後さらに集合住宅のZEH化や既存住宅の省エネリノベーションを推進し、“脱炭素社会”の構築を目指します。

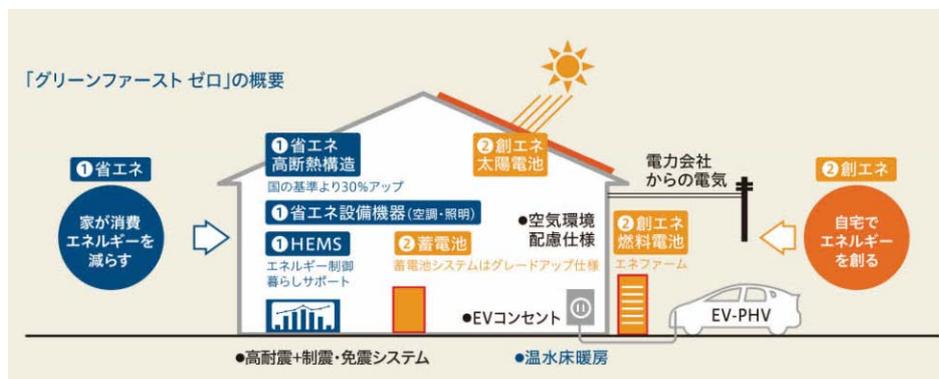
## ■「グリーンファースト ゼロ」の概要



### ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)の考え方

ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)は、省エネルギーと創エネルギーを組み合わせることで、一次エネルギー消費量が正味でゼロとなる住まいです(家電・調理等のエネルギー消費を除く)。

ZEHである「グリーンファースト ゼロ」は、高い断熱性と省エネ機器により消費エネルギーを削減し、さらに太陽電池や燃料電池などの先進の創エネ機器により、エネルギー収支「ゼロ」を目指します。



### 【グリーンファースト ゼロの特徴】

- ・高い断熱性能と、太陽電池と燃料電池のダブル発電などにより、外観や快適性を損なわずにZEH仕様を実現
- ・戸建住宅の全商品で対応が可能
- ・経済性と快適性を両立し、オーナー様の高い満足度を実現

### 敷地対応力とデザイン性に優れ、快適な暮らしを実現する環境配慮型住宅

積水ハウスでは、家はエネルギーのために建てるのではなく、敷地やライフスタイルに合わせて設計し、その上で環境配慮をするべきだと考えています。このため、太陽光発電システムはモジュールに合わせた瓦型の太陽電池を採用、これにより複雑な屋根形状にも対応し、デザイン性を確保、まちなみに適した環境配慮型住宅とすることが可能になりました。また、ハードウェアだけでなく通風配慮設計や吹き抜け・大開口サッシで自然とつながる「スローリビング」や、「5本の樹」計画に基づいた庭など、自然エネルギーを利用し、快適性と暮らしの豊かさを追求しています。当社の鉄骨2階建て、重量鉄骨3・4階建て、木造住宅「シャード」など戸建住宅の全商品に対応し、オーナー様に満足度の高い提案を強化しています。



モジュールにあわせた瓦型の太陽電池の採用により、屋根の形状を選ばず隅々まで設置が可能



自然とつながる「スローリビング」により、快適な暮らしを実現



「イズ・ロイエ グリーンファースト ゼロ」



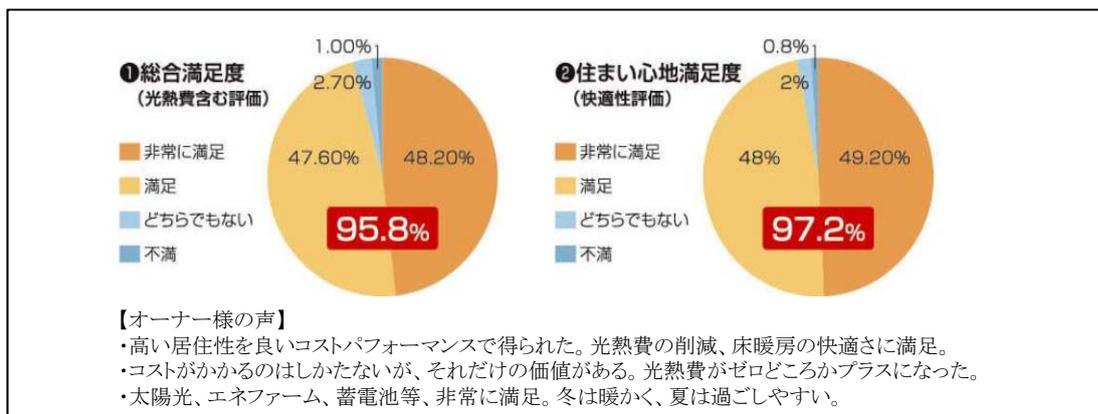
「ピエナ グリーンファースト ゼロ」



「ザ・グラヴィス グリーンファースト ゼロ」

## 快適性と経済性を両立、オーナー様の高い満足度を実現

2015年3月に実施した「居住1年後のアンケート調査(積水ハウスのZEHの顧客 N=516)」によれば、「グリーンファースト ゼロ」のオーナー様の評価は95%を超える高い満足度でした。



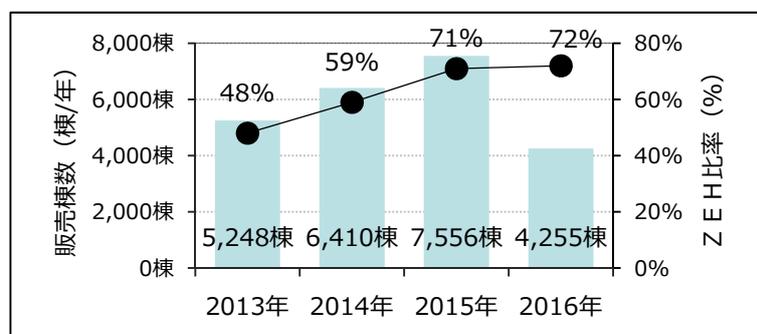
## ■「グリーンファースト ゼロ」の成果と今後の目標

### 「グリーンファースト ゼロ」の販売棟数とCO<sub>2</sub>排出削減の実績

「グリーンファースト ゼロ」は2013年に販売を開始しました。2014年には、2020年にハウスメーカー等の新築住宅の過半数をZEH化するという政府の目標を上回り、2016年7月までの累計販売戸数は23,469棟、ZEH比率は72%に達しています。

ZEHは、生活時の一次エネルギー消費(家電分を除く)を収支ゼロにできるため、大幅なCO<sub>2</sub>の削減が可能です。積水ハウスの試算では、1990年の平均的な住宅※のCO<sub>2</sub>排出量4.923t-CO<sub>2</sub>/年・棟に対し、「グリーンファースト ゼロ」のCO<sub>2</sub>排出量は平均0.578t-CO<sub>2</sub>/年・棟です。削減量は4.346t-CO<sub>2</sub>/年・棟、1棟あたりの削減率は家電分を含み88%です。これに累積棟数を乗じると、「グリーンファースト ゼロ」によるCO<sub>2</sub>排出量削減は、合計約10万t-CO<sub>2</sub>/年となります。

※ 床面積145㎡、旧省エネ断熱、一般ガス給湯器、一般エアコン、白熱灯照明



「グリーンファースト ゼロ」の販売実績と比率

### 住宅が牽引するこれからの地球温暖化防止活動

積水ハウスは、2015年に開催されたCOP21において、日本の民間企業で唯一「Global Alliance for Buildings and Construction(建物および建設部門における共同宣言)」に賛同、署名しました。

また、COP21における日本政府の約束である、2030年度までに2013年度比26%のCO<sub>2</sub>削減の公約達成に向け、環境省が認定する環境先進企業「エコ・ファースト企業」として、新築住宅の「グリーンファースト ゼロ」比率80%の達成と、集合住宅のZEH化、既存住宅の省エネリノベーションを積極的に推進しています。

こうした積水ハウスの取り組みが高く評価され、2016年11月、モロッコで開催されたCOP22の公式イベント「Buildings Day」において、民間企業で唯一、事例紹介を行いました。

今後も住宅業界のリーダーとして、積水ハウスがZEHの普及を先導することで、業界全体のZEHの比率を引き上げ、地球温暖化をはじめとする社会課題の解決に寄与してまいります。